農場実習報告

▶実習概要

2026/6/1~6/14 の 2 週間、農場実習をさせていただきました。実習では搾乳作業、子牛管理、牛舎清掃、検診補助などを経験し、酪農現場の日常業務、農場運営や従業員間の連携について得られた学びを報告させていただきます。

今回実習させていただいた農場はフリーストール牛舎と一部つなぎ牛舎で飼養しており、設備としてはパーラー・搾乳ロボット・給餌ロボット・哺乳ロボットを備えております。



給餌ロボット

実習ではパーラーでの搾乳と子牛の管理をメインに幅広く経験させていただきました。

▶哺乳と搾乳について

朝はパーラーでの搾乳とそれに伴う牛追いや牛床掃除、子牛のハッチ掃除、哺乳などをさせていただきました。牛を追うということひとつとっても、農家さんの動きから学ぶことが多くありました。また哺乳に関しては、ミルクに見向きもしなかったりすぐに離してしまう子牛、哺乳ロボットに全く入ってこない子牛など様々であることが印象に残るとともに、それらの子牛をきちんとピックアップして飲ませること、いつもと違う様子に気付くことの大切さを学びました。また、本農場では毎日の哺乳ロボットの洗浄と乳頭のこまめな取り換え（少しでも乳頭口が開いてきたら交換）が徹底されており、子牛の健康につながっていると感じました。



子牛たち

敷料入れ替え中でソワソワ…

その他にアブレストパーラーでの搾乳もさせていただきました。



本農場では 10 頭パーラーを使用し、基本的には 2,3 人で搾乳を実施しておりました。搾乳作業についても一から教えていただき、何より周りの動きを見て動くことと、複数回かがんでの作業、乳頭配置が悪い牛の乳頭洗浄とミルカー装着の難しさを知ることができました。

本農場では待機場の扉とスタンチョンが空気式であったり、乳頭洗浄ブラシを導入していたりと女性でも負担の少ないシステムが導入されており、作業の効率化に繋がっていると感じました。また、ブラシできちんと乳頭口まで汚れを落とすことやこまめにブラシ自体の汚れを落とすこと、プレ・ポストディッピング、SA 感染牛は搾乳の最後にすることが徹底されておりました。



ブラシもこまめに洗浄

▶農家さんから見た繁殖検診

また、繁殖検診前の牛追いも一緒にさせていただきました。検診の対象となる牛をスタンチョンに全頭入れ、スプレー等で目印を付けることの大変さを理解しているつもりでしたが、実際にやってみると想像以上に時間がかかりました。入れたい牛に限ってなかなか入ってくれなかったり、あちこち逃げ回ったりと時間がかかり、これをいつも検診前にしてくださっているんだなと実感することができました。また、実習中においては検診する獣医側ではなく一緒に前立ちをさせていただきました。直検をしているときは必死で時間経過が曖昧になりがちなのですが、いざ前立ちしてみると一頭ごとの待ち時間の長さが普段の倍以上に感じました。繁殖検診について今はまだ修行中ですが、農家さんを待たせてしまう時間が短くなるよう日々努力していこうと思います。

その他にも牧場作業だけでなく、地域のコントラ業者さんや農協さんとのエサに関わる人々の集まりにも参加させていただきました。当然の事実ではあるのですが、毎日のエサが牛の口に入るまでにこれだけ多くの人が関わっており、私たちが実施する飼料設計のその先にいる方々の存在を改めて実感いたしました。

▶牛を観察することの重要性

日々の作業の中で牛の様子を見ること、普段と少し違う部分に気付けるかの大切さを改めて実感するとともに、作業の中でその時間や余裕を持つ難しさを感じました。“牛を見ることが大事“と言うだけなら簡単ですが、実際に牛床掃除であったり搾乳や哺乳、給餌とせわしなく動く中で、ゆっくり牛を観察することは本当に難しい…。



元気にしてるかい？

ほんの一部ですが、実習の中で気づいたことや教えていただいた観察する項目を挙げさせていただきます。

・乳量・残餌・反芻
・歩き方
・活力
・耳垂れ・ヘソ腫れ・下痢
・糞便や尿(出てるか・色・匂い・硬さ)
・発情兆候(マウンティング・スタンディング・他の牛に顎を乗せる・外陰部や尿の匂いを嗅ぐ・落ち着きがない・咆哮・発汗・外陰部の充血・腫脹、発情粘液)

本農場は牛をよく観察することが日々の業務のなかで自然に根付いており、普段と様子の違う牛の情報共有や初期対応が早い点が印象に残りました。従業員さんの動きからは、“様子のおかしい牛を見つける”というよりは“いつもと違う”部分を見つけている点がこの観察力につながっているのかなと感じました。私自身も牛床の掃除や給餌といった日々の作業の中で、牛の様子はどうかな、発情来てる牛いるかな～と実習を通して意識することで、徐々に牛の様子に目が向くようになれたかなと思います。(作業だけで精一杯なときが大部分でしたが…。)



育成牛舎の
除糞作業

調子悪い子・様子が違う子はいるかしら～

▶最後に

今回の実習では、搾乳や子牛管理などの業務を経験する中で、日々の観察や基本管理の積み重ねが牛群の健康と生産を支えていることを改めて実感しました。また、牛個体だけでなく農場全体を見て考えることの重要性についても理解を深めることができました。
実習期間中は、従業員の皆さまに多くのご指導をいただき、酪農現場の実際や牛群管理について学ぶ貴重な機会となりました。特に、日常業務の中で自然に行われている観察や情報共有、迅速な対応からは多くのことを学ばせていただきました。
今回得られた経験や学びを今後の診療業務に活かし、農場の状況や背景を理解したうえで提案や診療ができる獣医師を目指していきたいと思います。

最後になりますが、ご多忙の中にもかかわらず実習を受け入れてくださり、多くのことをご指導いただいた、さいとうファームの皆さまに心より感謝申し上げます。



要涼果